

<メディアウオッチ> 元朝日記者の解雇求める脅迫をはねのけた北星学園大

2014年10月3日 上出 義樹

慰安婦報道に関わった元朝日新聞記者が教員を務める大学 2 校に、「解雇しないと爆弾を仕掛ける」などと脅迫文が送り付けられた問題を朝日が 10 月 2 日付社説で取り上げ、暴力で学問の自由を脅かす行為を指弾している。2 校のうち、帝塚山学院大（大阪府狭山市）は脅迫文が届いた 9 月 13 日に朝日OBの教授（67）が退職したが、今春まで朝日の記者だった植村隆氏（56）が非常勤講師を務める札幌市の北星学園大は「大学の自治を侵害する卑劣な行為」として、脅迫に屈しない姿勢を公表している。集中砲火的な朝日批判の勢いに負けない北星学園大の毅然とした対応にはエールを送りたいが、同大学の関係者からは今後の学校運営などに不安の声も聞かれる。朝日を含め全国紙が詳しく報じない北星学園大のメッセージを中心に、今回の脅迫問題に立ち入ってみたい。

「爆破する」の脅しや政治団体の街宣活動も

北星学園大は、明治年間の女子教育を源流とするキリスト教（プロテスタント）系の大学で、現在は短期部を合わせ男女約 4,500 人の学生が在籍する。

今回の脅迫問題では 9 月 30 日、同校のホームページに田村信一学長の名前で初めて公式な文書を掲載。植村氏の実名を明示した上で、主に学生や保護者に向けて事実関係などを説明している。それによると、植村氏は主に外国人留学生を対象に、慰安婦問題とは全く関係がない「北海道の歴史と文化」などの特別講義を（朝日在職中の 2 年前から）担当している。今年 3 月中旬以降、「なぜ（記事を）捏造するような人物を採用するのか」という趣旨の抗議の電話やメール、手紙などが多数寄せられているほか、大学周辺での政治団体による街宣活動やビラの配布なども増加。5 月と 7 月には同一内容の悪質な脅迫状が届き、さらに、電話で「大学を爆破する」などの脅しもあって、管轄の警察署に被害届けを出したという。

大学の自治を侵害する卑劣な行為に毅然と対応

こうした事実関係の公表が遅れたことを学生らにわびた上で、同大学の「基本的立場」に言及。①学問の自由・思想信条の自由は教育機関で最も守られるべきものであり、侵害されることがあってはならない②慰安婦問題や植村氏の記事について本学は判断する立場にない。批判の矛先が本学に向かうのは著しく不合理③本学に対するあらゆる攻撃は大学の自治を侵害する卑劣な行為であり、毅然として対処する。一方、大学は学生らの安全に配慮する義務を負っており、内外の平穏・安全が脅かされる事態には速やかに適切な対応を取る一と表明している。

「異質なものを重んじ、内外のあらゆる人を隣人と見る開かれた人間である。そういう意味での自由を目指す」という同大学の教育目標を体現するようなアピールである。

市議会の答弁で札幌市長からエール

ただ、同大学の教員によると、植村氏の継続雇用には学内で賛否両論あるほか、学生らの安全対策に多額の警備費用がかかるなど、大学は厳しい学校運営を迫られているという。

そんな中で、札幌市議会では9月30日、今回の脅迫問題を取り上げた共産党市議の質問に上田文雄市長が「大学にはこのような攻撃に屈してはならないとエールを送りたい」と答弁している。朝日は北海道版でしか報じていないが、行き過ぎた朝日批判に巻き込まれながらも、苦境を乗り切ろうとする北星学園大には大きな励みになる言葉ではないのか。

(かみで・よしき) 北海道新聞社で東京支社政治経済部、シンガポール特派員、編集委員などを担当。現在フリーランス記者。上智大大学院博士後期課程(新聞学専攻)在学中。